



理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。



初期
臨床研修医

半年を振り返って



なかがわ なおき

中河 直輝

教育研修センター
初期臨床研修医1年

しまざき がく

教育研修センター
初期臨床研修医1年

嶋崎 岳

こんにちは。研修医1年目の中河直輝です。市立病院での初期研修が始まってはや6ヶ月が経ちました。これまでに麻酔科2ヶ月、総合診療科3ヶ月、消化器内科1ヶ月での研修をさせていただきました。ようやく病院での慌ただしい生活にも慣れ、日々の診療で出てくる疑問を解決し、先生やスタッフの方々から幅広い知識や技能を優しく丁寧に指導していただきながら充実した日々を過ごしています。また、毎日患者さまと接することで病気や治療に関すること以外にも、その患者さまの価値観、取り巻く環境や退院後の生活まで考えることの大切さを学んでいます。

今後も医師として求められる知識や技能を身につけていくのと同時に、この6ヶ月で学んだ「患者さまと向き合うことの大切さ」を忘れることなく日々の診療に取り組んでいきたいと思えます。

まだまだ至らぬ点もありますが、みなさまのお力添えをいただきながら日々精進して参りますので今後ともよろしくお願いいたします。

臨床研修が始まり、はや6ヶ月が経ちました。ローテーションとしては、麻酔科を2ヶ月間、総合診療科を3ヶ月間、血液内科を1ヶ月間研修させていただきました。現在は内科を研修中です。病名、病態や病状が様々な患者さまにおける入院中の管理などを学ばせていただくとともに、上級医の指導のもとで多岐にわたる手技を経験しつつ、スキルを磨いています。

並行して救急外来の研修もあり、救急車で搬送される方、発熱・腹痛などで夜間、外来で受診される方など、様々な患者さまが来院されますが、そんな中で各科の上級医に付いて日々多くの症例を経験し、幅広く救急対応を学ばせていただいています。

今後は、自立してできることを少しでも増やし、2年目に向けて多くのことを、より深く学んでいきたいと考えています。

院内感染防止対策研修会を行いました

平成29年9月22日（金）、エスアールエル学術顧問（前：大手前病院臨床検査部長・感染管理センター長）の山中喜代治先生をお招きして、院内感染防止対策研修会を開催しました。テーマは「行列のできる感染管理相談室 ～抗菌薬と耐性菌 そして手を洗いましょう～」です。

耐性菌とは、抗菌薬が効きにくい細菌のことであり、代表例としてはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）等があります。耐性菌が増加する一方で新たな抗菌薬の開発は減少しているという世界的な大きな問題がある今、我々医療従事者は薬剤耐性対策について正しい知識を得て実践することが責務となります。患者さんに悪さをしている菌を見極めること、耐性菌を作らないために抗菌薬を適切に使用すること、そして免疫力の低下している患者さんに耐性菌を運ばないために全ての医療従事者が手指衛生を正しく行うことが必要です。山中先生は全職員が当たり前に行うべき手指衛生を「まいどの手洗い」と表現されました。中でも、感染防止対策チームだけが病院内の感染防止対策を見回しするのではなく、職員一人ひとりが正しい知識を持って見回る気持ちで、患者さん・訪問者を全職員で守りましょう、という言葉が心に残りました。

難しいテーマであるにもかかわらず、会場から何度も笑いが起こる楽しく分かりやすい講演となりました。



エスアールエル学術顧問 山中 喜代治 氏



第42回 市民医療講演会を行います

講演

脳卒中治療の現状 脳神経外科 谷浦 晴二郎

移植医療の現状と意思表示について
鳥取県臓器移植コーディネーター 牛島 愛

開催日時

平成29年10月28日（土） 10:00～11:30

会場

さざんか会館 5階大会議室

さざんか会館駐車場及び鳥取市役所駅南庁舎駐車場をご利用ください。

市民の健康づくりを目的に、「市民医療講演会」を開催しております。当院医師をはじめ、技師、看護師等医療スタッフが、時期に合わせたトピックス・知識・テーマなどのお役立ち情報を交えて講演いたします。

当日は、医療相談コーナーを設置します。当院の相談員が、がんに関することをはじめとした様々な医療に関する相談をお受けしますので、お気軽にお越しください。



当院の図書室をご紹介します

教育研修センター 司書 小林 飛鳥

当院には、患者図書室と職員図書室の2つの図書室があります。

今回は患者図書室についてご紹介します。

患者図書室について

患者サロン『陽だまり』

患者図書室は、地域医療総合支援センター内、患者サロン『陽だまり』に設置されています。患者サロン『陽だまり』は、がんについて情報を得たり、交流の場として利用する部屋として2007年に整備されました。情報を得るための資料として購入しているがんに関する専門書、闘病記、絵本、漫画などに、小説や実用書を加え、患者サロンを患者図書室としてもご利用いただけるようにしています。

開室時間は、平日9:00～17:00です。入院患者さまだけでなく、外来患者さま、患者ご家族さまも利用でき、資料の院外貸出も行っています。図書室への来室が難しい入院患者さまには、“出前サービス”と題してご希望の本を病室までカートでお届けしています。



患者サロン『陽だまり』の入り口



出前カート

当院図書室は 鳥取市立図書館の一窓口です

2014年10月からは、鳥取市立図書館（以下 市立図書館）の一窓口としての運営を開始しました。市立図書館の窓口となることで、市立図書館の所蔵す

る約61万5千冊の豊富な資料を病院図書室を通して利用者に提供できるようになりました。受け取り場所を病院図書室に指定して予約、または司書に取り寄せを依頼すれば、週2回（月・木）の搬送便で資料が病院に届きます。市立図書館所蔵の資料だけでなく県内外の公共図書館・大学図書館からも資料を取り寄せられます。患者図書室で所蔵している資料は、市立図書館の蔵書検索システムから検索や予約ができるので、当院を受診していない市民の方も、希望する図書館で当院資料を借りることができます。

当院で借りた資料は、3館6室ある市立図書館のどこにでも返却できますし、市立図書館で借りた資料を当院図書室で返却することも可能です。また、市立図書館から特別配置資料として、大活字本やファッション・生活雑誌、一般読物、児童書、絵本などをお借りし、患者図書室内および、人間ドックなどを行う健診センター内にて展示、貸出しています。



病院図書室に勤務して4年、市立図書館の一窓口としてサービスを始めて3年が経過しました。市立図書館の窓口であることも認知され始めたようで、普段から市立図書館を利用されている入院予定の患者さまが、入院日に合わせて当院を受け取り場所に指定して本を予約してくださったり、定期的に受診される患者さまからメールで「この本が気になります。次回の受診日に取り寄せお願いできますか？」と連絡をいただくなど、お役に立てていることを実感しています。

まだまだ未熟で、情報収集に時間がかかってしまったり、利用者のニーズを把握しきれず的外れな情報を提供してしまったりと、ご迷惑をお掛けすることもあります。今後も病院図書室の司書として必要な知識の習得に精進するとともに、公共図書館の窓口として、利用者の生活・暮らしのサポートにも貢献できるよう、他館・他施設と連携を取りながら、サービスの充実を図っていきたいと思います。